

# 三菱UFJ 日本バランスオープン 株式20型

追加型投信／国内／資産複合

作成対象期間：2022年2月16日～2023年2月15日

第 23 期 決算日：2023年2月15日

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは、国内の株式や債券へ分散投資し、各資産の相対的な魅力度に応じ、一定の範囲内で資産配分比率を調整することで信託財産の長期的な成長をめざして運用を行っております。ここに運用状況をご報告申し上げます。  
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

### 第23期末 (2023年2月15日)

基準価額	11,426円
純資産総額	2,019百万円
騰落率	+0.7%
分配金合計 <sup>(*)</sup>	0円

(\*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に  
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで  
閲覧およびダウンロード

**MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

### ■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用  
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

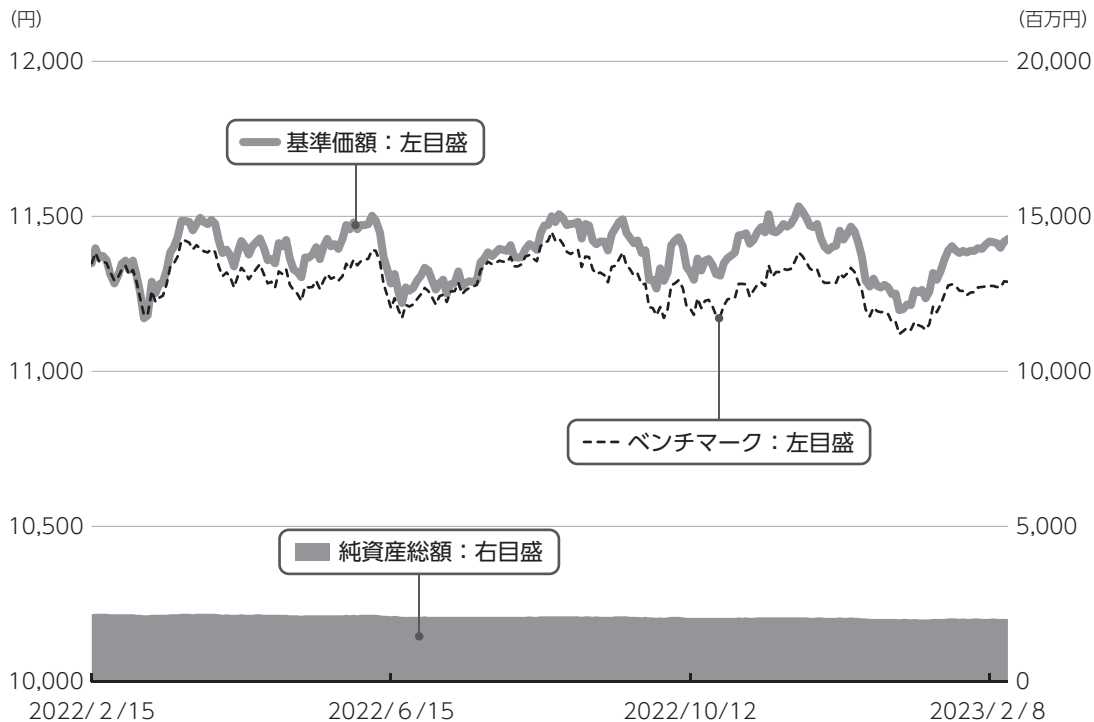
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

# 運用経過

第23期：2022年2月16日～2023年2月15日

## 当期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



第23期首	11,349円
第23期末	11,426円
既払分配金	0円
騰落率	0.7%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

**基準価額の動き**

基準価額は期間の初めに比べ0.7%の上昇となりました。

**ベンチマークとの差異**

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-0.5%）を1.2%上回りました。

**基準価額の主な変動要因****上昇要因**

主に、国内株式の値上がりが上昇要因となりました。

組入ファンド	騰落率	組入比率(対純資産総額)
三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド	13.3%	24.5%
三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド	-3.6%	36.9%

※ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標）は、合成指数です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2022年2月16日～2023年2月15日

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	125	1.100	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	( 56)	(0.495)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	( 56)	(0.495)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 13)	(0.110)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.038	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
( 株 式 )	( 4)	(0.038)	
(c) その他費用	0	0.003	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 0)	(0.000)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	129	1.141	

期中の平均基準価額は、11,379円です。

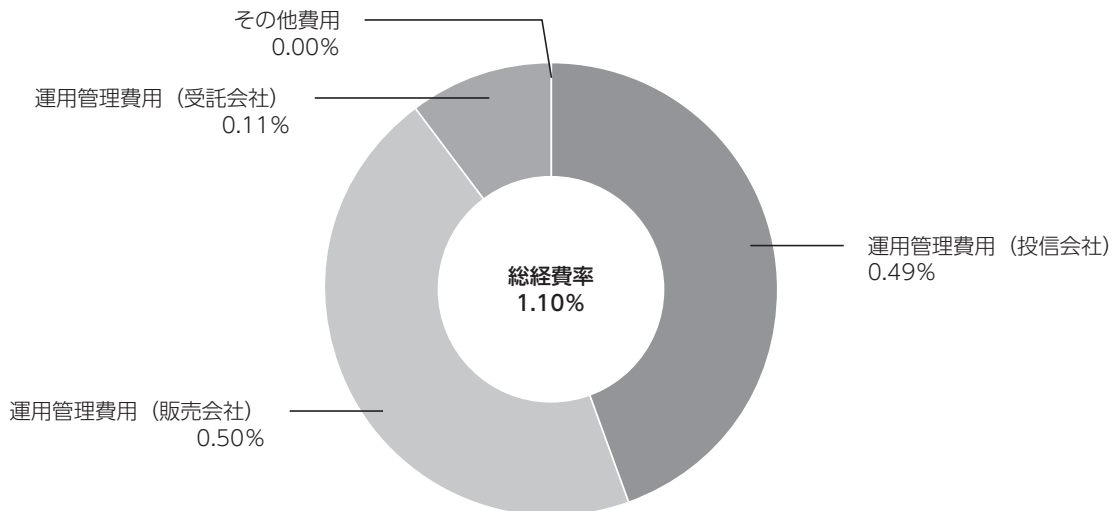
- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

### ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.10%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

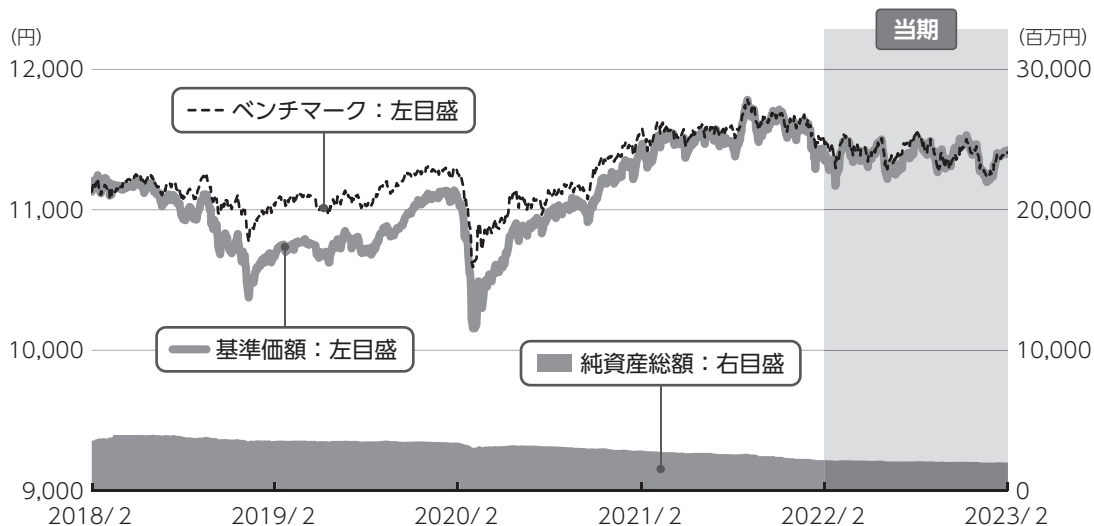
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2018年2月15日～2023年2月15日

## 最近5年間の基準価額等の推移について



※ベンチマークは、2018年2月15日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

## 最近5年間の年間騰落率

	2018/2/15 期初	2019/2/15 決算日	2020/2/17 決算日	2021/2/15 決算日	2022/2/15 決算日	2023/2/15 決算日
基準価額 (円)	11,128	10,668	11,056	11,455	11,349	11,426
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	-4.1	3.6	3.6	-0.9	0.7
ベンチマーク騰落率 (%)	—	-0.9	2.0	2.8	-0.8	-0.5
純資産総額 (百万円)	3,547	3,544	3,414	2,865	2,170	2,019

ベンチマークは、合成指数です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

第23期：2022年2月16日～2023年2月15日

## 投資環境について

### ▶ 国内株式市況

#### **国内株式市況は上昇しました。**

期間の初めから2022年3月上旬にかけては、ロシアのウクライナ侵攻による地政学リスクの高まりを受けて原油価格が上昇するなどインフレ懸念が強まったことや同国に対する制裁措置の導入が世界的な景気に与える影響が懸念されたことなどから、国内株式市況は下落しました。

3月中旬から期間末にかけては、米国で物価上昇率の鈍化が確認され、過度な金融引き締めに対する懸念が後退したこと

や「ゼロコロナ」政策を緩和した中国の経済回復に伴う国内企業の業績拡大期待が高まったことなどから、国内株式市況は上昇しました。

### ▶ 国内債券市況

#### **国内金利は上昇しました。**

国内金利は、米国金利が上昇したことや日銀が2022年12月の金融政策決定会合において長期金利の変動幅を拡大したことなどから上昇しました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

### 三菱UFJ 日本バランスオープン 株式20型

国内株式・国内債券・短期金融資産を実質的な主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行いました。

国内株式・国内債券・短期金融資産の組入比率を、定められた範囲の中で市場見通しに基づき変更し、リスク分散にも留

意した資産構成を目指しました。

国内株式の値上がり、プラスの資産配分効果となりました。

各資産の標準組入比率および変更の範囲は以下の通りです。

国内株式：20%（範囲10%～30%）

国内債券：40%（範囲30%～50%）

短期金融資産：40%（範囲20%～60%）

	国内株式	国内債券	主な変更事由
期間の初め	OW	UW	
2022年3月	OW	UW-	インフレ率が欧米と異なりさほど上昇しないなか、ウクライナ情勢に伴う景気への懸念が浮上し、日銀の金融緩和政策が維持されるとの見解から、国内債のUW幅を縮小。
4月	OW-	UW	株価反騰が進行するなか、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ加速や、資源価格高騰からのコスト高に伴う景気への懸念が根強いことを考慮し、国内株のOW幅を縮小。
6月	OW+	UW+	米国の景況感の底堅さが国内景気を下支えするとの見方等から、国内株のOW幅を拡大。一方、国内のインフレ圧力が徐々に強まり、日銀が金融緩和解除に着手する可能性等を勘案し、国内債のUW幅を拡大。
8月	OW-	UW-	FRBの利上げが当面継続されると見込まれるなか、株価反騰が一定の進展を実現したとみて国内株のOW幅を縮小。一方、米国の利上げ継続が世界景気の減速を促すことなどを考慮し、国内債のUW幅を縮小。
9月	OW-	UW-	FRBがインフレ抑制優先に向けた金融引き締め姿勢を堅持することを示し、世界的な景気先行き懸念が強まったとみて、国内株のOW幅を縮小、国内債のUW幅を縮小。
10月	OW+	UW	資源価格反落によって原材料コストが低下に転じつつあることや、円安メリットの効果浸透が見込まれること、および株価調整が進んだことを受け、国内株のOW幅を拡大。
2023年1月	OW+	UW+	設備投資増強への動き、財政による景気支援策、インバウンド回復期待等を背景に国内株のOW幅を拡大。インフレ率が上昇傾向であるなかでの、日銀の政策変更のリスク等を考慮しUW幅を拡大。
期間末	OW	UW	

※『OW』は基準の配分比率より多い配分を、『UW』は基準の配分比率より少ない配分を、『N』は基準の配分比率を、±記号は配分比率の増減を示しています。

※時価変動による組入比率の変動は考慮していません。



### ▶三菱UFJ 国内株式アクティブマ ザーファンド

銘柄選定にあたっては、以下の2つの観点から行いました。

- ①中長期的な成長力の高い銘柄や業績改善度の大きい銘柄
- ②企業価値に対して株価が割安と判断され、かつ株価上昇が期待できる銘柄  
組入銘柄数は、概ね57～67銘柄程度で推移させました。価格転嫁によるコスト高への対応が進むことに加えて、海外事業の拡大が見込まれる森永乳業や、日銀の金融政策修正を受けた金利先高観の高まりから業績改善が期待されるりそなホールディングスなど31銘柄を新規に組み入れました。一方、ハードディスクドライブ市場の減速が業績へ与える影響が懸念された日本発條や、データセンター市場の見通しを下方修正し、業績鈍化が予想された新光電気工業など34銘柄を全株売却しました。

### ▶三菱UFJ 国内債券アクティブマ ザーファンド

ファンド全体のデュレーション（平均回収期間や金利感応度）についてはベンチマーク（NOMUR A-BPI 総合）対比で中立を基本に調整しました。年限別構成については、中期ゾーンのアンダーウェイト・超長期ゾーンのオーバーウェイトを基本に調整しました。

債券種別構成については、日銀による社債買入オペや投資家の資金余剰感を背景とした需給関係から、一般債のスプレッド（国債に対する金利差）は横ばい圏で推移すると判断し、相対的にスプレッド妙味のある事業債、円建外債および資産担保証券（ABS）のオーバーウェイト、スプレッド妙味の乏しい地方債および政府保証債のアンダーウェイトを維持しました。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

### 三菱UFJ 日本バランスオープン 株式20型

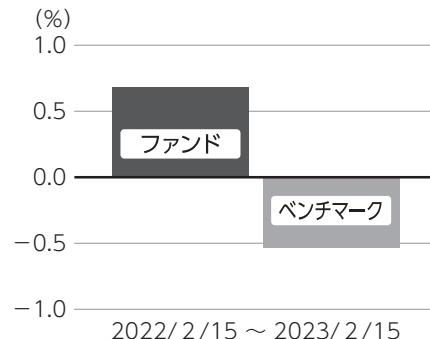
基準価額は0.7%の上昇となり、ベンチマークの騰落率(△0.5%)を1.2%上回りました。

差異の内訳は以下の通りです。

#### 内訳

三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド	1.8%程度
三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド	△0.1%程度
資産配分要因	0.3%程度
その他(信託報酬等)	△0.8%程度

### 基準価額(ベビーファンド)とベンチマークの対比(騰落率)



### 三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド

#### プラス要因

**業種配分要因**：輸送用機器、サービス業をベンチマーク(TOPIX(東証株価指数))に対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

**銘柄選択要因**：第一三共、大阪ソーダをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

#### マイナス要因

**業種配分要因**：機械をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことや金属製品をベンチマークに対して概ねオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

**銘柄選択要因**：北國フィナンシャルホールディングス、新光電気工業をベンチマークに対して概ねオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

## ▶ 三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

### マイナス要因

#### 年限別構成

パフォーマンスの劣化した超長期ゾーンをオーバーウェイトとしたこと。

#### 債券種別構成

スプレッドの拡大した事業債および円建外債をオーバーウェイトとしたこと。

## ▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第23期
	2022年2月16日～2023年2月15日
当期分配金（対基準価額比率）	-（-%）
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	1,566

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ▶三菱UFJ 日本バランスオープン 株式20型

引き続き、景気や市況動向などに応じて、機動的に資産配分を行う方針です。

### ▶三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド

銘柄選定にあたっては、以下の2つの観点から行います。

- ①中長期的な成長力の高い銘柄や業績改善度の大きい銘柄を選定
- ②企業価値に対して株価が割安と判断され、かつ株価上昇が期待できる銘柄を選定

具体的には、1) 経営者のリーダーシップ、2) 企業戦略の適切さ、3) マーケット支配力・競争力、4) 産業の循環、産業構造の変化等の定性的な要素を踏まえ、中長期的にみて高い利益成長が期待できる銘柄や業績の大幅な改善が見込める銘柄を選定し、株価の妥当性をチェッ

クしたうえで、組み入れを図ります。

今後の国内株式市況は、「ゼロコロナ」政策を緩和した中国経済の回復が期待されることや米国においてインフレがピークアウトする動きとなっていることを受けて底堅い展開になると考えています。そうしたなか、成長性とバリュエーションを考慮した銘柄選択を行っていく方針です。

### ▶三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位を維持する方針です。

ファンド全体のデュレーションは、当面ベンチマーク対比中立を基本に機動的にリスク度合いを調整する方針です。

債券種別構成は、事業債、円建外債およびABSについて、ベンチマーク対比多めの保有を維持する方針です。

# お知らせ

## ▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

## ▶ その他

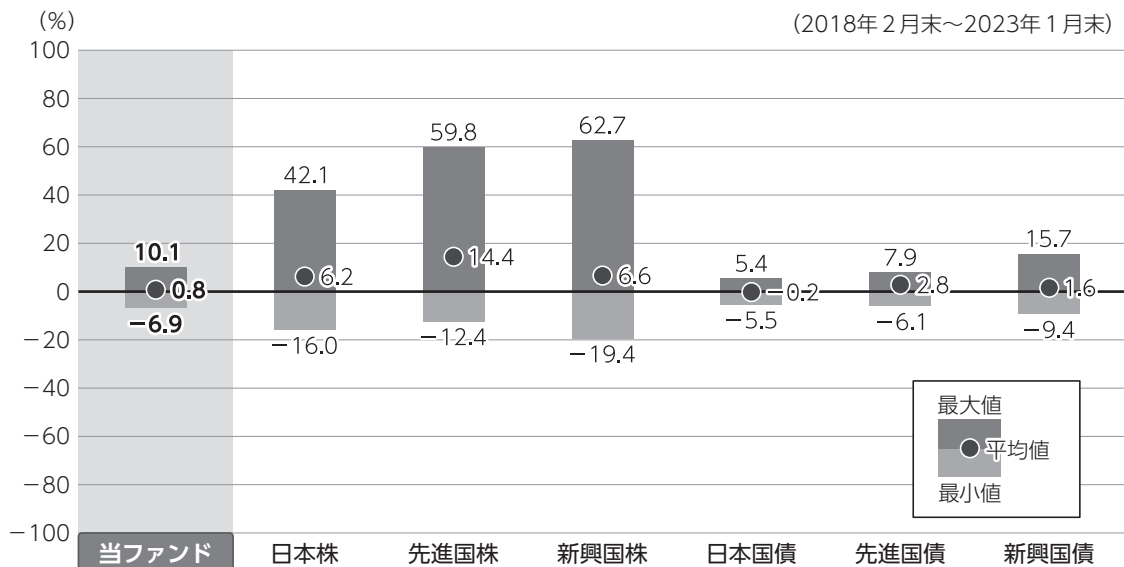
- ・該当事項はありません。

\*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。  
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufig.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

# 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／資産複合
信託期間	無期限（2000年4月28日設定）
運用方針	三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド受益証券および三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド受益証券を主要投資対象とし、国内株式・国内債券・短期金融資産への分散投資を行い、信託財産の長期的な成長をめざします。各資産の組入比率を、定められた範囲の中で市場見通しに基づき変更し、リスク分散にも留意した資産構成をめざします。
主要投資対象	<p>■当ファンド 三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド、三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンドの各受益証券および短期金融資産を主要投資対象とします。</p> <p>■三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド わが国の株式を主要投資対象とします。</p> <p>■三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド わが国の公社債を主要投資対象とします。</p>
運用方法	国内株式・国内債券・短期金融資産を実質的な主要投資対象とし、各資産の指数を組み合わせた合成指数をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果をめざします。
分配方針	毎年1回決算（原則として2月15日。ただし、2月15日が休業日の場合は翌営業日とします。）を行い、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行う方針です。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

# ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2018年2月から2023年1月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

## 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

# 当該投資信託のデータ

2023年2月15日現在

## 当該投資信託の組入資産の内容

### 組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第23期末 2023年2月15日
三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド	36.9%
三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド	24.5%

※比率は当ファンドの純資産総額に対する各マザーファンドの評価額の割合です。

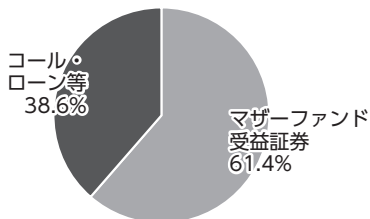
### 純資産等

項目	第23期末 2023年2月15日
純資産総額 (円)	2,019,768,366
受益権口数 (口)	1,767,680,883
1万口当たり基準価額 (円)	11,426

※当期中において追加設定元本は74,261,858円  
同解約元本は 219,493,857円です。

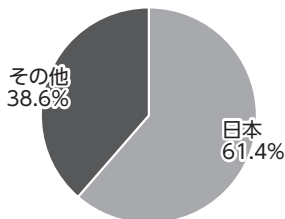
### 種別構成等

#### 資産別配分



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

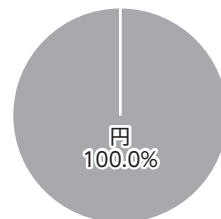
#### 国・地域別配分



※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

#### 通貨別配分





591201

2023年2月15日現在

## 組入上位ファンドの概要

## 三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド

## 基準価額の推移

2022年2月15日～2023年2月15日



## 1万口当たりの費用明細

2022年2月16日～2023年2月15日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)その他費用	0	0.000
( 保管費用 )	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、14,232円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

## 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：131銘柄)

	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	第348回利付国債(10年)	債券	日本	国債	3.2
2	第360回利付国債(10年)	債券	日本	国債	2.8
3	第350回利付国債(10年)	債券	日本	国債	2.3
4	第351回利付国債(10年)	債券	日本	国債	2.1
5	第354回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.8
6	第369回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.7
7	第176回利付国債(20年)	債券	日本	国債	1.5
8	第182回利付国債(20年)	債券	日本	国債	1.4
9	第166回利付国債(20年)	債券	日本	国債	1.4
10	第150回利付国債(20年)	債券	日本	国債	1.4

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

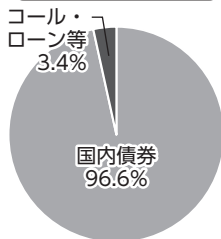
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用

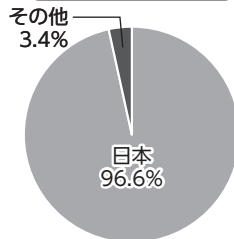
報告書(全体版)をご覧ください。

## 種別構成等

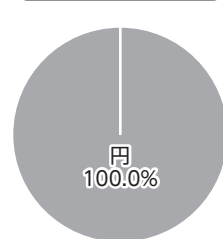
## 資産別配分



## 国・地域別配分



## 通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

591101

2023年2月15日現在

## 組入上位ファンドの概要

## 三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド

## 基準価額の推移

2022年2月15日～2023年2月15日



## 1万口当たりの費用明細

2022年2月16日～2023年2月15日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)売買委託手数料	32	0.160
(株式)	(32)	(0.160)
合計	32	0.160

期中の平均基準価額は、19,784円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

## 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：60銘柄)

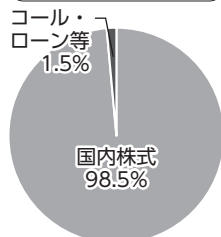
順位	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	ソニーグループ	株式	日本	電気機器	5.3
2	キーエンス	株式	日本	電気機器	3.4
3	FOOD & LIFE COMPANIE	株式	日本	小売業	3.3
4	東芝	株式	日本	電気機器	3.2
5	日本電信電話	株式	日本	情報・通信業	2.6
6	第一三共	株式	日本	医薬品	2.6
7	富士通	株式	日本	電気機器	2.5
8	久光製薬	株式	日本	医薬品	2.3
9	M&A総合研究所	株式	日本	サービス業	2.3
10	東京海上ホールディングス	株式	日本	保険業	2.2

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。  
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

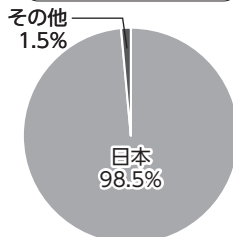
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

## 種別構成等

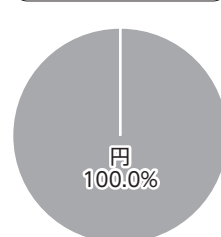
## 資産別配分



## 国・地域別配分



## 通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。  
 構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。  
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とした他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

# 指数に関して

## ▶ ファンドのベンチマークである『合成指数』について

当ファンドのベンチマークは、TOPIX（東証株価指数）20%、NOMURA-BPI 総合40%、有担保コール（翌日物）40%を組み合わせた合成指数です。

## ▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

### ● 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

### ● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村フィデュシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

### ● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ● JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信